

70周年を迎えて

去る11月29日に創立70周年記念の式典を無事に開催できましたことに御礼を申し上げます。当日はご来賓、会議所活動への功労者や優良従業員として表彰を受けられた方々も含め、400名近いご出席をいただくことができました。改めてまして、表彰を受けられました皆様には心から敬意を表すとともにお祝いを申し上げます。

70年前1946年といえば、太平洋戦争終戦の翌年、今の憲法が公布された年です。戦争で荒廃した我が国が立ち上がり、世界でも驚異と言われる復興が本格化した時代です。そんな厳しい大変な時代に、この商工会議所を立ち上げ、新たな一步を踏み出そうとした先達たちの心意気に想いをはせる時、畏敬と感謝の気持ちが湧いてまいります。

さて、現実を目を向けると、政府の積極的な経済刺激策の効果がなかなか実感できない地域の中小企業の現場ではありますが、誰かが何かをしてくれるという幻想は捨て、自助努力をしていくしかないと感じます。そのためにも、地域の暮らしを下支えする地域経済の担い手である3,400の会員企業の経営の活発化に資することこそ、わが小田原・箱根商工会議所の責務であると改めて強く感じております。

昨年の箱根大涌谷の火山の活発化により、箱根はもとより小田原の経済にも大きな影響を受けました。観光を中心に箱根と小田原はまさに一体の経済圏を構成しているという現実を体感いたしました。その学びを「小田原・箱根の観光ビジョン」として44項目にわたる提言をまとめました。これから一つひとつその実現していくために新たなタスクフォースを立ち上げたところです。例を挙げれば、今回発表いたしました小田原のお城を中心としたまちづくりの提言である「平成の城下町・宿場町構想」はある意味、夢プランではありますが、単なる絵に描いた餅に終わらせてならないと思っております。もちろん、当所だけでできることではなく、行政や各種団体、そして会員企業との連携が必須です。実現に向けての具体的な取り組みを模索してまいります。

「議論して、行動して、結果を問う」を標榜する当会議所では、6つの部会、7つの特別委員会、そして、時機に応じて立ち上げるタスクフォースにおける活発な議論から積極的な提案や具体的な事業が生まれています。タスクフォースの成果の例として、昨年度スタートした「第3創業市・創業塾とビジネスプランコンテスト」から実際に五社の創業が実現したことをご報告いたしました。今年度は地方創生の交付金を活用しさらにバージョンアップして展開中です。先日12月3日に開催したビジネスプランコンテストなどを通じて、さらにこの小田原箱根で事業を起こす人たちをサポートしてまいります。

繰り返しになりますが、行政・自治会と連携した防災対策、小田原の中心市街地の活性化、大手工場跡地の利活用、地方創生の切り札になりえる地域でのエネルギー事業、会議所会館の更新など山積する課題に果敢に丁寧に取り組んでまいります。

言うまでもなく、商工会議所の活動の一丁目一番地の目的は会員企業の商売繁盛です。そのために、各種相談、専門家派遣、セミナーの開催等、会員企業の皆様方の経営支援に当所

を挙げて取り組んでおります。

新しい議員、役員体制で、ますます元気に活動してまいります。ぜひ、会員の皆さまには、これまで以上に会議所をご活用していただきますように、そして、会議所活動に積極的にご参画いただけますようお願いいたします。地域でのお金の循環を増やし、持続可能な地域経済をベースにした心豊かなに暮らせる小田原・箱根をご一緒に創ってまいりましょう。

会頭 鈴木悌介。